

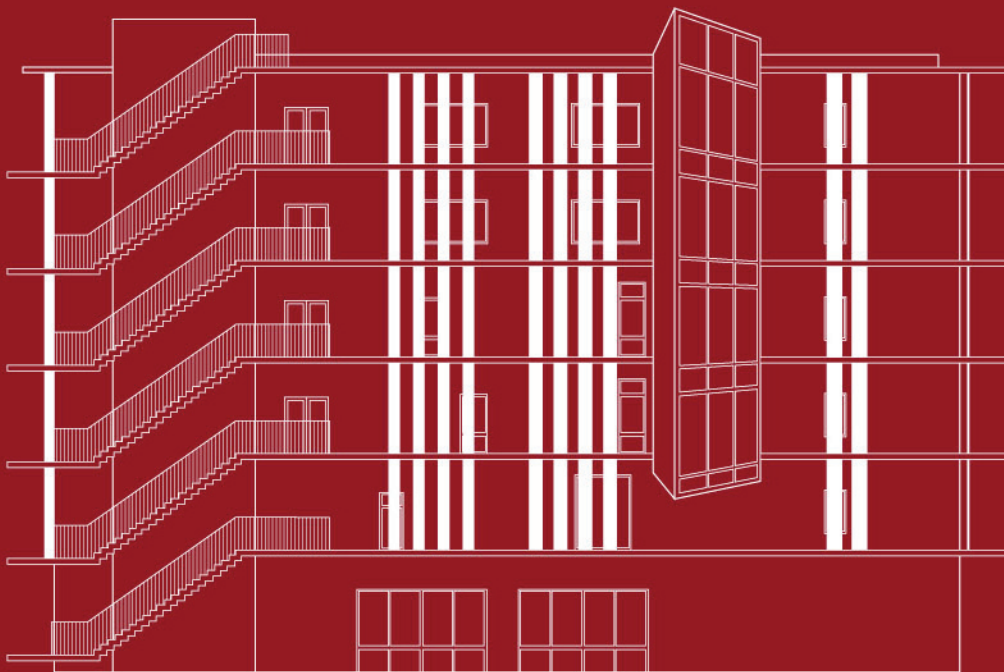


高知県立大学

文化学部

思索と実践

Think & Practice



*Faculty of Cultural Studies, University of Kochi*

*Eikokuji Campus*

## 思索と実践

文化学部では、書物の読解と理解に基づいた深い思索に加えて、フィールドに出て学びを実践する機会も多くあります。思索と実践を通じて、学ぶ楽しさを知り、世界を見る目を養っていきましょう。

### 学部長メッセージ



#### 永国寺キャンパスで「知の拠点」を担う学部づくり

文化学部は、改組20周年を迎え、永国寺キャンパスにおいて「知の拠点」を担う学部づくりに取り組んでいます。前身の文学部の時代は「お城下の女子大」ともいわれ、四国唯一の女子高等教育機関として設立された歴史を紡いできました。

高知県立大学は、科学研究費採択率が公立大学トップの実績をあげています。本学部の教員を代表者とする研究課題は、英語学、哲学、文化人類学、観光学、政治学、社会学、建築史・意匠等の審査区分で採択されており、知の先端をいく研究を展開しています。

改組20周年を記念に、学部3系10領域の学際性を活かし、本学部の専任教員が中心となって、高知の歴史と文化に関する一般向け書籍「大学的高知ガイド」を刊行します。

重要文化財の高知城天守が見える新キャンパスは、近隣に文化施設や学校が数多く立地しています。学内にとどまらずに学生の豊かな学びを保障するため、各機関と知の連携をはかっていきます。

本学部は、教職員と在学生が一致協力して、保護者や卒業生、地域の方々などからのご理解とご支援を賜り、たゆまぬ努力を重ねて、教育と研究のさらなる充実をめざす所存です。

文化学部長 三浦要一



### III 沿革

高知県立大学文化学部は、高知女子大学文学部を前身に持つ、伝統ある学部です。  
 高知女子大学文学部は、戦後の女子高等教育を担い、県内外に教員を始めとする多くの自立した女性を輩出してきました。2011年には男女共学化し、県内外から多くの学生が集まるようになりました。そして、2015年に夜間主コースが増設され、県民の学ぶ意欲を支えてきた高知短期大学の歴史も受け継いでいます。

- 1944年12月29日 高知県立女子医学専門学校設立認可
- 1947年 3月31日 高知県立女子専門学校設立認可
- 1949年 2月21日 高知県立女子専門学校を母体とし、高知女子大学設立認可
- 1956年 3月 1日 文学部増設認可。国文学科・英文学科から成る2学科制
- 1998年 4月 1日 文学部を文化学部文化学科に改組  
日本語・日本文化コース、英語・英米文化コースの2コース制
- 2004年 4月 1日 2コース制から文学専修、文化創造専修、言語コミュニケーション専修の3専修制に移行
- 2011年 4月 1日 大学の設置者が高知県立大学法人に変更  
男女共学化により校名を高知県立大学に変更
- 2015年 4月 1日 文化学部文化学科の拡充  
3系(言語文化系、地域文化創造系、文化総合系)10領域。定員150名

### III Index

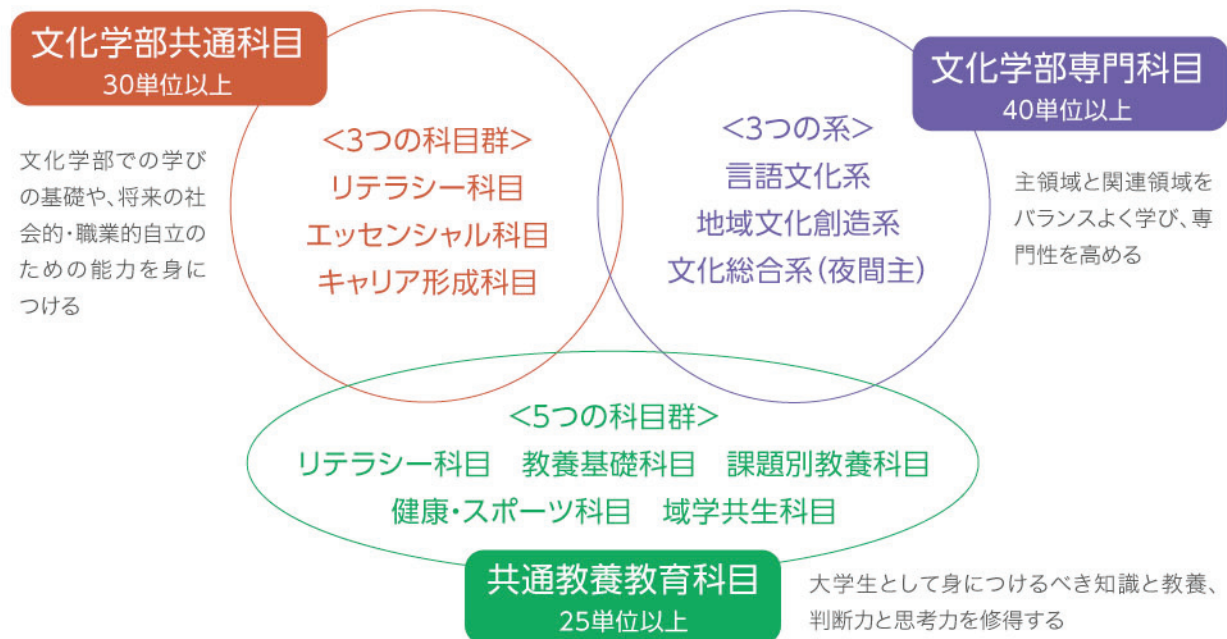
- 02 学びのシステム
  - 03 カリキュラムマップ
  - 04 教育の特色
  - 05 免許・資格取得
  - 06 言語文化系の学び
  - 08 地域文化創造系の学び
  - 10 文化総合系の学び
  - 11 文化学部開講科目一覧
  - 12 国際交流
  - 14 地域連携
  - 15 学生生活
  - 16 就職・キャリア支援
- 裏表紙 入試情報

# 学びのシステム



文化学部では、はじめに共通教養教育科目や文化学部の基礎的な科目を学び、それから各領域の専門科目へと学びを深めていきます。専門科目は、3年次に選択する主領域だけでなく、同じ系のなかの隣接領域や、それ以外の領域からも履修できます。自分の興味や関心に合わせて、幅広く専門知識を修得することが可能です。

## カリキュラムの構造 卒業に必要な単位数(124単位)



### 3系10領域の学び

#### 言語文化系

英語学領域  
国際文化領域  
日本語学領域  
日本文学領域

#### 地域文化創造系

地域文化領域  
地域づくり領域  
観光文化領域  
観光まちづくり領域  
現代法文化領域  
生活法文化領域

#### 文化総合系(夜間主コース)

言語文化系と  
地域文化創造系から  
エッセンスを学ぶ

#### ■ カリキュラムマップ

	1年次	2年次	3年次	4年次
	共通教養科目と文化を学ぶための基礎科目を中心に学びます。	専門基礎科目に加え、専門科目の履修が始まります。	専攻を、言語文化系・地域文化創造系から選択します。ゼミナールが始まります。	これまでの学びの集大成として、卒業研究を完成させます。
文化学部 共通科目	<リテラシー科目> 文化を学ぶために必要な基礎的リテラシーの養成をします。			
	<エッセンシャル科目> (講義系) 文化を総合的に理解するための基礎的知識の習得をめざします。			
	<キャリア形成科目> 将来の社会的、職業的自立に向けた能力の養成をします。		<エッセンシャル科目> (演習系)	ゼミナール形式で行われ、4年次は卒業研究に取り組みます。
文化学部 専門科目	<言語文化系> (講義科目)		<言語文化系> (演習科目)	
	講義系科目では、専門分野の知識を増やし、専門性を高めます。		演習系科目では、学生自身が発表し互いに議論することで、実践能力を身につけます。	
	<地域文化創造系> (講義科目)		<地域文化創造系> (演習科目)	
	<文化総合系>		言語文化・地域文化創造系の科目を選び、幅広く効果的に学びます。	
共通教養 教育科目	<リテラシー科目>	英語コミュニケーション、情報処理概論、コンピュータリテラシー、情報リテラシー、ビジネスリテラシー、日本語表現法		
	<教養基礎科目>	科学と人間、基礎化学、基礎生物学、物理と自然法則、地球の科学、数学入門、基礎統計学、社会調査基礎論、日本国憲法、法学、政治学、経済学、倫理学、哲学、文学、基礎ジェンダー学、心理学		
	<課題別教養科目>	生活と社会福祉、現代生活論、環境と健康と安全、自然災害と防災の科学、平和論、現代人権論、ジェンダーとキャリア、労働と人権、地域とグローバル化、家族関係論、地域メディア論、異文化理解海外フィールドワーク		
	<健康・スポーツ科目>	健康スポーツ科学I・II、対人関係とメンタルヘルス、健康とヘルスプロモーション、栄養と健康		
	<域学共生科目>	地域学概論、土佐の歴史と文化、土佐の経済とまちづくり、土佐の自然と暮らし、土佐の食と健康、専門職連携論、チーム形成論、地域学実習I・II、域学共生実習		

# 教育の特色



少人数科目を多く設置し、学生同士、学生と教員との距離が近い学びの機会を提供しています。こうした科目では、議論をすること、考えること、実践することを重視し、アクティブラーニングが行われています。授業を通して、現代社会で通用する幅広い教養を身につけ、創造的思考力を育成することをめざします。

## Ⅲ 少人数教育

文化学部での授業や学習プログラムのなかには、学生が各教員の研究室に所属して研究を行う「文化学課題研究ゼミナール」のほか、「専門演習」がそれぞれの領域で開講されています。

「文化学課題研究ゼミナール」では、1つの研究室に一学年5～10名程度のゼミ生が所属しています。学生ひとりひとりが研究テーマを持ち、研究成果を発表しあい、議論をすることで研究を深めていきます。また、「専門演習」では、同じ研究領域の学生10～20名程度が集まり、多角的な視点から議論を行います。

文化学部では、少人数教育を重視し、その利点を活かす工夫がなされています。学生と教員、学生同士が近い距離で学び合っています。

## Ⅲ 英語で学べる科目群

文化学部では、英語による授業が開講されています。英語をしっかり使いこなせる力を身につけ、英語の言語的特徴や、文学作品の分析、日本や外国の文化などを幅広く学べる科目構成になっています。また、授業では、英語を使って、自分の意見を表現できる「発信力」も高めていくことができます。

英語学領域・国際文化領域では、コミュニケーションの理論や世界各地の文化を英語で学ぶ講義や、英語の世界で表象される日本を学び、日本のことを英語で発信する科目があります。

## Ⅲ フィールドワーク

文化学部では、書物を読んで思索することと同時に、フィールドに出ることを重視しています。

たとえば「観光フィールド専門演習Ⅰ」では、多様な分野の教員による指導のもとでフィールドワークを行い、観光を多面的に理解します。「地域づくり専門演習Ⅰ」では、プロジェクトの運営を通して地域づくりに関する理論と実践を学びます。

フィールドワークには、手法があります。各専門分野で行われているフィールドワークの手法を学び、議論を重ねることで、学びはさらに深まっています。



## 免許取得・資格取得サポート

### ✓国語・英語の中学校・高等学校教員をめざす

文化学部では、以下の教育職員免許状等学位取得が可能です。

中学校教諭一種免許状(国語)	高等学校教諭一種免許状(国語)
中学校教諭一種免許状(英語)	高等学校教諭一種免許状(英語)

教員免許状を取得するには、「教科に関する専門科目」「教職に関する専門科目」「教科又は教職に関する専門科目」から決められた単位数を修得する必要があります。

文化学部では、教員をめざす学生の実力をつけるために、日本語検定やTOEIC(R)などの検定試験のサポートを行っています。また、各教科の教育法の授業では、模擬授業や教材の作成などの実践的な内容が取り入れられており、教員をめざす学生同士の学び合いが積極的に行われています。



### ✓日本語教師をめざす

「日本語教育能力検定試験」に合格するために、日本語教員養成のためのカリキュラムを用意し、学びのサポートをしています。指定された科目から30単位以上を取得すれば「高知県立大学日本語教員養成のためのカリキュラム認定証」が授与されます。このように、学習目標を明確にできるシステムとなっています。

開講されている科目を履修することで、日本語教師を目指すために必要とされる、日本語と英語の言語力と文化を深く学び、教育能力を高めることができます。



### ✓公務員をめざす

公務員になるには、大学での勉強だけでなく、公務員試験に向けた準備が必要です。文化学部では、公務員をめざす学生のために、「公務員対策講座」(高知県立大学生協主催)が開講されています。講座は、昼間主の講義時間が終了した18時から始まります。永国寺キャンパスでの開講となっているため、大学の講義から引き続き受講できる利便性があります。

文化学部からは、県庁・市町村職員のほか、裁判所職員などにも合格する学生がいます。



# 言語文化系の学び



近年、日本語の国際化が進み、非母語話者による日本文学の隆盛が見られるようになってきました。また、非母語話者が母語話者を上回るという英語の国際語としての現状の下、通信網の急速な発達により、英語を用いた学術、ビジネス、文化交流活動が組織的レベルからパーソナルなレベルで、かつグローバルな広がりの中で活発に行われています。このような状況のもと、英語と日本語についての高い運用能力と文化背景の理解を軸にした言語コミュニケーション力を養成することが強く望まれています。

こうした要請に応えるために、言語文化系では、文学の教育・研究と言語の教育・研究とを密接に学ぶ科目群を配置し、言語の理解とそれを媒体とする文化現象の双方をバランスよく学べるようになってきました。

## 日本語学領域・日本文学領域

自らを育んできた日本の文化を受容・継承し、多様な世界の文化の一つとして認識することは非常に重要です。なかでも日本語学・日本文学領域の学修は、人類が築いてきた普遍的な叡智に学ぶという点で豊かな未来の創造に欠かせません。そこで、本領域では、日本語学・日本文学およびそれらと関わりの深い中国文学の学修を通じて、グローバル社会の中で自らの立脚点をしっかりと自覚し、自己の存在をより確かなものにできるような感性や能力を養っていきます。

### 言語文化系 日本語学・日本文学領域 2回生の時間割例

2回生から領域の専門科目の履修が始まります。  
地域文化創造系の科目も興味に応じて履修できます。

	月	火	水	木	金
1		日本語文章構成論			
2		英文化・文学史			
3	文化と経済	古典文学講読I	比較言語研究	公共哲学	日本語学講読
4			中国文学講読(散文)		文化と権利
5		民俗学		観光産業論	

■ 言語文化系の専門科目 ■ 文化学部共通科目 ■ 地域文化創造系の科目

### 教員一覧

- 井上 次夫 国語教育学・日本語学
- 高西 成介 中国文学
- 橋尾 直和 日本語学・方言学・社会言語学
- 東原 伸明 日本文学(上代・中古)
- 田中 裕也 日本文学(近代・現代)

### 講義紹介 日本語学講読

担当教員 橋尾 直和 (日本語学・方言学・社会言語学)



テーマは、「応用社会言語学を習得しよう!」です。「集団とことば」「世代とことば」「ジェンダーとことば」「言語接触」「移民とことば」「ことばの変異」「日本語の共通語化」「日本語の関西弁化」「地域言語」「都市言語」「ことばの習得」「コード選択と言語使用」などについて、社会言語学・文化言語学・認知言語学などの多角的アプローチによって考察します。

これらの言語学の基礎知識を踏まえた上で、日本語と社会・文化・環境との関わりについて分析し、その知識を応用する能力、すなわち「応用社会言語学」の習得を目指します。

### 受講生の声 梶本 歩実さん



日本語学講読の講義で特に印象に残っているのは、「ら抜き言葉」です。これは可能動詞の「食べられる」等を「食べれる」のように言う表現のことで、一般的に広く使用されていますが、言葉の乱れだと考える人もいます。ら抜き言葉を用いると、同じ助動詞「れる」「られる」で表される自発・受身・尊敬と可能との区別が明確になります。つまり、ら抜き言葉は言葉の乱れではなく、合理的な言語変化であると考えこともできます。このように、身近な日本語を言語学的に見ることで、新たな側面を知り、日本語へのさらなる興味に繋がりました。



# III 英語学・国際文化領域

グローバル化がすすむなかで、英語を用いたコミュニケーションや、異なる文化を比較して考える能力はますます重要になっています。英語学領域では、英語学・言語学の理論の学修と実践的なトレーニングを通じて、高度な英語運用能力を養成します。国際文化領域では、英米文学をはじめとする異文化の学修や、国際的な視点からの日本文化の再検討、国際関係の分析を通じて、グローバルな思考力と実践力を養成します。

## 言語文化系 英語学・国際文化領域 3回生の時間割例

領域の基本科目である英語・国際系の科目を学びながら、幅広い教養をつけていきます。

	月	火	水	木	金
1					
2		観光文化論Ⅱ	国際日本学Ⅱ	観光と自然環境Ⅱ	言語教育実践論Ⅰ
3		英語学専門演習Ⅰ	英語スピーキングⅡ	土佐地域文化資源論(訪日)	キャリア形成論
4				地域社会と法文化	英文化・文学論
5	文化学基礎研究セミナーⅠ		英語ライティングⅡ		

■ 言語文化系の専門科目 ■ 文化学部共通科目 ■ 地域文化創造系の科目

## III 教員一覧

- 五百蔵 高浩 英語学・英語教育学
- Joel Joos 日本思想史・日本文化史
- Andrew Oberg 哲学・応用言語学
- 金澤 俊吾 英語学
- 溜 和敏 国際関係論
- 鳥飼 真人 近現代イギリス文学・西洋文学理論
- 向井 真樹子 言語学



## III 講義紹介① 比較言語研究

担当教員 | 向井 真樹子 (言語学)



この授業では、英語教員として必要とされている知識である言語の特徴をみていきます。日本語母語話者が間違えやすい英語の特徴をみることで、英語教員として英語のどのような特徴を教える必要があるのかを考えます。

特に日本語と英語の特徴を比較・対照し分析していくことで、言語間の違いから起こりうる間違いの特徴を、学生がグループで考えます。英語を学習する際に気を付ける点や、普段何気なく使っている日本語を意識することで、自分自身の言語能力を上げることを目的としています。

受講生の声 | 松岡 菜奈さん



大学に入学してから日本語と日本語教育に興味を持ち、この講義を受講しました。内容は主に日本語と英語の比較で、日本語話者と英語話者の考え方の違いや表現方法の違い、外国語としての日本語または英語の教え方を学ぶことができます。

普段何気なく使用している日本語ですが、第二言語としての日本語を外国人に教える場合どう説明したらよいか、なぜ英語話者は日本語のこの発音を間違えるのかなど、英語と比較することで気づくことも多く、非常に興味深いです。

## III 講義紹介② 国際日本学Ⅱ

担当教員 | Joel Joos (日本思想史・日本文化史)



近代日本の歴史は、外国人にも知ってほしい事件や人物たちに富んでいます。高知の近代史は坂本龍馬などが注目を集めやすいですが、この授業では維新後の出来事に焦点を絞り、明治10年代における市民の政治参加や男女同権など、権利と自由をかかげる運動に着目します。自由民権運動の中心地であった高知が生み出した活動家たちとその思想について学び、それを英語で伝えることにも挑戦します。外国人にもわかりやすい冊子を作成することが目標の一つです。

受講生の声 | 下山 拓真さん



私が国際日本学Ⅱを受講している理由は、日本が世界でどのように思われているかを学ぶためです。日本国内において、日本の歴史や文化についてあまり認知をされておらず、海外へ発信することができない人も多いようです。この講義では、日本の歴史と文化を学ぶことができ、さらに世界はそれらをどう捉えているかを知ることができるので、とても有意義です。

# 地域文化創造系の学び



地域文化創造系では、地域と文化、観光と文化、法と文化に関わる多様な科目群を配置し、学際的な視点から人間の生活や文化のありようを比較検討していきます。そして、国際的な視野を念頭に置きながら、地域文化の維持、発展、創造を担う能力を養っていきます。地域文化・地域づくり領域、観光文化・観光まちづくり領域では、文献調査やフィールドワークの方法を習得し、書物と地域社会のフィールドを往復して考えます。社会に主体的に関わりながら問題を発見し、複眼的に考えぬく能力を養います。

## 地域文化・地域づくり領域

豊かで持続可能な地域づくりにむけて、地域文化や地域政策を、地域づくりにどのように活かしていくのかについて学びます。そのために、地域の課題を様々な角度からとらえ、その解決策を考えます。フィールドワークだけでなく、文献調査、統計調査、地理・地学的調査など、社会科学・自然科学の双方を含む学際的視点から地域を分析していきます。

### 地域文化・地域づくり領域 2回生の時間割例

領域の専門科目と地域文化創造系の科目を履修します。  
興味関心に応じて、言語文化系の科目も選択できます。

	月	火	水	木	金
1					
2	観光と自然環境I				地域メディア論
3	土佐の歴史と文化	景観文化論		キャリアデザイン論	地域防災論
4		地域づくりフィールドスタディ	文献調査論	社会保障と法文化	
5		地域づくり論	国際開発論	観光まちづくり論I	

■ 地域文化創造系の科目 ■ 文化学部共通科目 ■ 言語文化系の専門科目 ■ 共通教養教育科目

### 教員一覧

- 大井 方子 経済学
- 大村 誠 地学・地理学
- 宇都宮 千穂 日本経済史・地域経済学
- 清水 直樹 政治学・政策分析

### 講義紹介 文化学課題研究ゼミナール

担当教員 | 大村 誠 (地学・地理学、防災・減災全般)



大村ゼミでは、防災・減災について幅広く教育・研究しています。防災・減災は、数十年以上の時間のなかでの、自然のふるまいと人間社会の対応の関係であり、「事前の備え→発災時の対応→復旧・復興」のサイクルの繰り返しです。「文系」と「理系」の知識・手段を取り合わせて、ゼミ生それぞれが防災・減災の課題に取り組みます。本ゼミ生の共通基盤として、全員が防災士資格を取ることが原則です。地域での防災活動、学校での防災教育、文学館での活動などへの支援も行い、現場での体験を生かしつつ、考察を進めます。

受講生の声 | 永井 佐和子さん



このゼミでは、まず、日本と世界各地で起きた災害事例について学びます。さらに、いざ災害が発生した時には、知識だけではなく、生きのびる「術(すべ)」が大切です。その「術」を子どもたちに伝えるために、高知市内の小中学校で行われている防災キャンプのお手伝いもしました。この経験もあり、私は学校の防災に特に興味を持つようになりました。災害時に学校がどのように対応したのか調べ、どうすれば子どもたちの命を守ることができるのかを考えたいと思います。

# III 観光文化・観光まちづくり領域

観光・交流の効果を活かす持続可能なまちづくりが、人口減少が進むこれからの日本の社会を支え、豊かさを育むうえで期待されています。これらの領域では、観光という観点を手掛かりに文化現象を理解し、現代社会の諸問題を考察する人文・社会科学の研究方法を学びます。さらには、企業活動、景観・環境アメニティ、文化財、異文化理解、倫理学をめぐる問題などについて考える視点や手法を身につけます。

## 観光文化・観光まちづくり領域 3回生の時間割例

領域の主要科目である観光関連の科目を履修し、その理解を深めるために地域文化創造系の科目や共通教養教育科目も選択できます。

	月	火	水	木	金
1					
2	情報化社会と法文化	英文化・文学論			
3	土佐の食と健康	日本思想史	観光まちづくり論II	文化政策論	観光企画論
4		観光文化フィールドスタディII	観光企画専門演習	災害と法	
5	文化学課題研究ゼミナーI	地域産業論		ワークライフバランスと法	

■ 地域文化創造系の科目
 ■ 文化学部共通科目
 ■ 言語文化系の専門科目
 ■ 共通教養教育科目

## III 教員一覧

- 小長谷 悠紀 観光学・観光文化研究
- 三浦 要一 住生活学・住文化史
- 飯高 伸五 文化人類学
- 吉川 孝 哲学
- 梶原 太一 商学・企業分析

## III 講義紹介 観光産業論

担当教員 | 小長谷 悠紀 (観光地計画、観光まちづくり、観光文化研究)



この講義では、人々の旅行を支え、利便を提供しているビジネスや観光・運輸などの公の政策がどのような場で行われているかを学びます。修学旅行や海外旅行でお世話になったことはあっても実はよく知らなかった旅行業のしくみ、時代・社会に応じて新しい形が続々と登場する宿泊施設、自動車社会の中での地方鉄道の意義や生存戦略、世界中のエアラインや空港の競争などを話題にします。観光をとりまくビジネスの性質、課題や思考について現代社会の潮流と考えあわせながら理解する力を培います。

受講生の声 | 山口 侑姫さん



「観光産業論」では、旅行会社、交通機関、テーマパークなど、具体的な企業の例を取り上げることが多く、観光に関わる企業、業種のひろがり、さまざまな携わり方や事業の視点について学ぶことができます。この講義を受けて、もっと観光に関する知識を身につけたり、企業や地域が取り組む観光事業や観光地の形成について研究したいと考えるようになりました。将来的には、旅行会社への就職を視野に入れています。

# III 現代法文化領域・生活法文化領域

人間は法によって規制されますが、同時に、法を作り出したのも人間です。これらの領域では、法の背景にある文化・思想やそれらと法との相互関係を理解し、そして法を文化の一つとして捉えて文化の理解を深めていきます。現代社会の諸問題、市民生活の諸問題を法と文化の観点から探求することを通じて、文化の形成・維持・発展に寄与できる能力をもつ人材を養成します。

## 現代法文化・生活法文化領域 3回生の時間割例

領域の主要科目である法律関連科目の履修が中心になります。社会や文化の知識を得るために、周辺領域の科目も選択します。

	月	火	水	木	金
1					
2		観光文化論II		観光と自然環境II	
3		住文化論	倫理学		キャリア形成論
4			生活法文化専門演習I	地域社会と法文化	文化と人権
5	文化学課題研究ゼミナーII	地方自治論	国際開発論	家族関係と法文化	

■ 地域文化創造系の科目
 ■ 文化学部共通科目
 ■ 言語文化系の専門科目
 ■ 共通教養教育科目

## III 教員一覧

- 岩倉 秀樹 憲法学
- 菊池 直人 商法
- 根岸 忠 労働法・社会保障法
- 田中 康代 刑法

## III 講義紹介 地域社会と法文化

担当教員 | 菊池 直人 (商法)



この講義では、地域社会の課題と関連する法制度について学びます。地域社会が抱える課題は多岐にわたり、解決のためには多様な取り組みが求められます。そして、これらの活動を支えるため、法が重要な役割を果たしているのです。例えば、講義では地方の市街地活性化を取り上げます。現行法の対応例として、大型店舗の出店規制や市街地での空き店舗の利用促進などがありますが、立法上の課題についても考えていきます。地域の課題は複合的・包括的問題です。本講義においても、公法・私法の法領域を問わず検討していくことになります。

受講生の声 | 釜口 喬生さん



将来は公務員を志望しており、空き家問題などの地域の課題について、法律がどうなっているのか関心があって受講しました。授業を受けてみて感じたことは、地域の問題は、身近だけどなかなか解決が難しい問題が多いということでした。受講しているときは、実際に自分が公務員になったとき、どう対応すべきだろうかなど考えることがあります。授業中、講義の内容だけでなく、関連する話題を提供してくれることもあって、興味深いです。

# 文化総合系の学び



「文化総合系」は、夜間主コースの学生が履修します。夜間主は、現に就業している方や就業経験のある方でスキルアップを目指したい方、就業しながら勉学を志す高校卒業見込みの方を対象とするものです。授業は、平日夜間の2時限（午後6時から9時10分まで）に開講されますが、昼間の学生と同様に4年間で学位を取得できます。

また、授業料は昼間の半額であり、学生の就学を支援するものとなっています。長期に計画的に単位を取得し卒業する制度（長期履修制度）もあります。年齢も経験も様々な人たちが集い、相互に刺激しあいながら学びあう場です。

「文化総合系」は、言語文化系と地域文化創造系の2系10領域の教育内容から、そのエッセンスを総合的に学ぶ教育プログラムを提供します。現代社会の課題に向き合い、解決にむけて取り組む構想力と実践力を育て、生涯にわたり学び続ける力を養います。「学ぶことの豊かさ」がここにはあります。

## 文化総合系 1回生の時間割例

文化学部共通科目と共通教養教育科目で、リテラシーと幅広い知識を身につけます。

	月	火	水	木	金
6	基礎演習	キャリアデザイン論	文献調査論	公共哲学	文化と権利
7	英語コミュニケーションA	地域学概論	英語コミュニケーションA	コンピュータリテラシー	健康スポーツ科学

## 文化総合系 3回生の時間割例

2系10領域からエッセンスを総合的に効率よく学ぶことができる時間割です。

	月	火	水	木	金
6	文化学際研究ゼミナール	地域分析論	災害と法	文化政策論	異文化コミュニケーション
7	英語ライティングI	日本語学講読	家族関係と法文化	近代文学講読	NPO論

## III 講義紹介① 近代文学講読

担当教員 田中 裕也 (日本近代・現代文学)



最近では文学作品を紙媒体だけでなく、スマホやタブレット端末などの電子媒体で読むことも多いのではないのでしょうか。しかし、ここで気づいて欲しいのは、文学作品は紙・電子いずれも「媒体」(メディア)なしには我々には届けられないということです。この講義では明治以降の新聞メディアの誕生と発達を見ていきながら、そこに掲載された「文学作品」のありようを分析していきます。〈作家〉と〈読者〉の関係性や〈純文学〉〈通俗小説〉〈ベストセラー〉などの概念が、いかにメディアのなかで作り上げられたものかを見ていきます。

## III 講義紹介② NPO 論

担当教員 梶原 太一 (企業分析、商学)



NPO論では、金銭的利益の獲得と分配を主たる目的としない非営利組織(NPO, not-for-profit organization)について学んでいます。2018年5月現在、高知県内には約300団体あまりのNPOが活動しており、市民が主体的に行う社会貢献活動の参加の場所として、大きな役割を果たしています。と同時に、活動資金をどうやって集めるか、職員の待遇をどうするか、ボランティアをどう活用するか、寄附の使いみちをどう報告するか、トラブルをどう解決するか、地域にどういふ形で貢献していくのか、といった様々な課題も抱えています。これらを1つ1つ解決していくための筋道を明らかにすることが、「NPO論」の目的です。

受講生の声 鈴木 葉奈さん



卒業研究の資料を集めていたとき、NPO団体が発行する情報誌を見る機会が多くありました。そこで、NPO団体がどのような活動をしているのかということに興味を持ち、NPO論を受講しました。この講義では、毎回、先生の作成した資料が配布され、講義終了時に感想・質問を書いて提出します。翌週には、私たちの質問に先生の解説があり、学びを深めることができます。講義では、高知県内に予想を超える数のNPOがあり、県内のNPOの様々な活動内容も知ることができましたし、卒業研究につながる手がかりも見つけることができました。

### Ⅲ 文化学部開講科目一覧 科目の基本的な学年配当を示しています。

		1年次 共通教養教育科目と文化学部 共通科目を中心に学びます。	2年次 専門基礎科目に加え、専門科目の 履修が始まります。	3年次 言語文化系・地域文化創造系から ゼミナールを選択します。	4年次 これまでの学びの集大成として、 卒業研究を完成させます。		
文化学部 共通科目	リテラシー科目	基礎演習 中国語基礎I・II ドイツ語基礎I・II	フランス語基礎I・II 日本語I・II 情報処理演習	文献調査論 基礎読書法			
	エッセンシャル科目	文化哲学 文化人類学 言語学概論 日本語学概論 日本文学概論 文化と権利 グローバルスタディー 公共哲学 民俗学 文化と経済 社会調査論 文化と裁判 異文化コミュニケーション グローバル平和論					
	キャリア形成科目		キャリアデザイン論	キャリア形成論 企業実習	文化学課題研究ゼミナールⅢ・Ⅳ		
文化学部 専門科目	言語文化系	英語領域	英語学概論 英語文法論 英語音声学	比較言語研究 英語ライティングI 英語スピーキングI	対照言語学 英語スピーキングII	英語ライティングII 言語教育実践論I・II	
					英語学専門演習I	英語学専門演習II	
		国際文化領域	英文化・文学史 米文化・文学史 国際関係論 国際開発論 国際日本学I	国際関係論 国際開発論	比較日本学I・II 国際日本学II	英文化・文学論 米文化・文学論	
					国際文化専門演習II	国際文化専門演習I	
	日本語学領域	日本語音声学・音韻論 国語教育学講読I	日本語史 日本語学講読 日本語文章構成論	国語教育学講読II 日本語教育学概論	日本語教育教材論		
					日本語学専門演習I	日本語学専門演習II	
	日本文学領域	基礎古典 近代文学講読	古典文学基礎講読I・II 古典文学講読I・II 現代文学講読	中国文学史 中国文学講読 (散文)	日本文学史(古典)・(近代) 中国文学講読(韻文) 書道		
					日本文学専門演習I	日本文学専門演習II	
	地域文化創造系	地域文化領域	日本文化論 土佐地域文化資源論(歴史)	地域文化論 土佐地域文化資源論(方言) 男女共同参画社会論 地域防災論	日本思想史 文化政策論 住文化論		
					地域文化専門演習I	地域文化専門演習II	
		地域づくり領域		地域づくり論 地域分析論 地域づくりフィールドスタディ	NPO論 地方自治論 地域産業論		
					地域づくり専門演習I	地域づくり専門演習II	
観光文化領域		観光文化論I	景観文化論 観光と自然環境I・II 観光文化フィールドスタディI	観光文化論II 観光文化フィールドスタディII			
				観光フィールド専門演習I	観光フィールド専門演習II		
観光まちづくり領域	観光学総論	観光産業論 観光まちづくり論I 観光まちづくりフィールドスタディI	観光企画論 観光まちづくり論II 観光まちづくりフィールドスタディII				
			観光企画専門演習	観光産業専門演習			
現代法文化領域	社会秩序と法 犯罪と法	文化と統治システム 現代法思想論	地域社会と法文化 情報化社会と法文化				
			現代法文化専門演習I	現代法文化専門演習II			
生活法文化領域	生活と法文化	文化と人権 ワーク・ライフ・バランスと法 労働契約と法文化 家族関係と法文化	社会保障と法文化 災害と法				
			生活法文化専門演習I	生活法文化専門演習II			
共通教養教育科目	リテラシー科目						
	教養基礎科目						
	課題別教養科目						
	健康・スポーツ科目						
	域学共生科目						

\*共通教養教育科目の一覧は、P3に掲載しています。 \*開講科目は、変更になることがあります。

# 国際交流



高知県立大学は、海外の提携校との間で留学生の派遣や受け入れを行ってまいりました。とくに文化学部は、学内でもっとも国際交流がさかんな学部で、アメリカ、中国、台湾、イタリアから留学生を迎え、様々な交流行事が行われています。永国寺キャンパスは年間を通じて国際交流の場となっており、異文化を日常的に体験できます。留学生との交流は、一生の財産となります。

## III 留学生の派遣・受入



### エルムズ大学 (アメリカ)

協定校からの 受入	短期(2週間)	10名
	長期(3ヶ月)	1名
協定校への 派遣	短期(2週間)	10名
	長期(3ヶ月・6ヶ月・1年で選択)	1名



### 北京聯合大学旅游学院 (中国)

協定校からの 受入	長期(1年)	2名
	協定校への 派遣	長期(1年)



### カリフォルニア州立大学 ノースリッジ校(アメリカ)

協定校からの 受入	長期(1年)	若干名
	協定校への 派遣	長期(1年)



### 木浦大学校 (韓国)

協定校からの 受入	短期(1週間)	10名
	長期(1年)	2名
協定校への 派遣	短期(1週間)	10名
	(10日間)	1名
	長期(1年)	2名



### ヴェネチア カ・フォスカリ大学(イタリア)

協定校からの 受入	短期(3ヶ月)	10名
	協定校への 派遣	短期(2週間)



### 文藻外語大学 (台湾)

協定校からの 受入	長期(1年)	2名
	協定校への 派遣	短期(1週間)
	長期(1年)	2名

### 慶南科学技術大学校 (韓国)

協定校からの 受入	短期(1週間)	10名
	(3週間)	10名
	長期(1年)	2名
協定校への 派遣	短期(1週間)	10名
	長期(1年)	2名

### ウボンラーチャタニ大学 (タイ)

協定校への 派遣	短期(2週間)	2名
-------------	---------	----

### 留学を経験した卒業生の声

出上 了さん(2017年卒業。現、富士通ビー・エス・シー システムエンジニア)

2015年にエルムズ大学へ1年間の交換留学  
「知らない土地、不慣れな英語、初めて会う人々の中で、約1年間生活できたことは、努力をすればどんな環境でもやっていると自信につながりました。現在、システムエンジニアとして働いています。文系の学部出身の私にとってわからないことがたくさんありますが、少しずつ成長して、やりがいをもって働いています。将来は海外システムエンジニアとして働きたいと思っています。」

※人数は他学部を含む大学全体での上限人数。文藻外語大学の短期派遣のみは文化学部からの派遣人数。

# 文化学部で世界とつながる

## ■ 国際交流クラブ

藤本 万里奈さん

国際交流クラブは、現在部員15人の小さなサークルです。しかし、留学生との交流から学び、楽しむことに貪欲なメンバーが、様々な活動を行っています。

イベントには、留学生歓迎会(4月)、パスハイク(6・10月)、忘年会(12月)、留学生送別会(2月)などがあります。また、週に1回、チューターとして留学生と一緒に勉強をします。サークル外の学生もいっしょに、観劇や旅行をすることもあります。このように、多くの学生を国際交流に巻き込み役割を果たしています。

## ■ 台湾からの留学生より

李天尹さん(文藻外語大学 大学院生)

2016年4月から2017年2月まで高知県立大学に留学しました。この一年間、日本語力を伸ばすことだけでなく、大学の授業や在学生との交流を通してすばらしい体験をしました。なかでも、日本人と一緒に受けた中国語の授業で大切な経験ができました。中国語を話せることと、中国語を教えらるることが同じではないとわかったからです。日本人の視点を知り、自分の言語について深く考えることができました。

## ■ 留学生チューターより

田中 有美さん

チューターは留学生のサポート役ですが、特別なことをしている意識はなく、友だちとしておしゃべりや勉強を一緒にしています。私が留学生の立場だとしても、留学先で友だちができるということは、とても素敵なことだと思います。イタリアの留学生たちは、日本についての知識をすでに習得してから留学に来ています。私が日本の習慣について留学生から教えてもらうこともあります。

## ■ 留学経験者

### インタビュー

寺田 鈴音子さん



**Q1** 最初は中国語が分からなかったようですね。大変ではなかったですか？

**A1** 出発する前に中国語の指導を受けていたのですが、当初は、一番下の中国語クラスに入り、漢字の書き方などを勉強しました。1か月ほどしてから、一つ上のクラスに上げてもらいました。そこでは授業でも中国語が飛び交い、日常的に中国語を使うようになりました。帰国前には漢語水平考試(HSK)5級に合格できました。

**Q2** 生活、たとえば食事はどうでしたか？

**A2** 北京は、人口が多くインフラも整備されています。食費・交通費は日本よりは安いです。スマートフォンでの決済が普及していて、買い物やタクシーなどはスマートフォンを使って支払いを済ませます。

**Q3** 留学で最も学んだと感じる部分は何ですか？

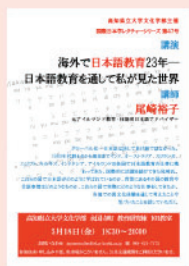
**A3** 一番の収穫は、単なる「日本人」と「中国人」とのかかわりあいにとどまらない側面があることに気付いたことです。国籍に関係なく、一人一人が様々な背景を持っています。それを心にとめて、交流をする必要があることが分かりました。

**Q4** 北京での留学経験を将来的にどのように役に立てたいですか？

**A4** 卒業後、中国政府の奨学金を利用して中国の大学院へ進学したいと考えています。何をすれば誰のためになるのかということ日々考え続け、行動できるような人間になりたいと思っています。



## 国際日本学レクチャーシリーズ



文化学部には、「国際日本学」や「比較日本学」など、日本について英語で学び、英語で発信する科目があります。その学習を補うために、「国際日本学レクチャーシリーズ」を開催しています(市民にも開放)。外国人の講師や海外経験豊富な日本人をゲストスピーカーに招いて、そのお話に触れることで、学生は日本と海外の違いを知り、それを乗り越えるコツについて考えます。学生は講演前に、講師と直接話をできます。

# 文化学部の地域連携

教員の専門領域を生かした地域との連携がすすめられています。

県内の文化施設や文化団体、企業、自治体と協働して、教育・研究を進めるとともに、地域貢献をめざしています。

## 自治体、ミュージアム、小・中・高校と共同調査

### 文化資源を活かしたカンカンミンガク域学共生事業

代表者：橋尾直和（日本語学・方言学・社会言語学）

暮らしの道具で「文化資源」でもある「民具」に視点を置くと、目に見えない文化が、目に見える民具を通して、地域の人びとの暮らしとともに見えてきます。地域のヒト・コト・モノの「歴史と文化」も見えてきます。「文化資源」は、モノだけではなく、人びとの記憶・記録も指します。聞き取り調査を通して、高齢者と若者との世代間交流が生まれます。

「立志社中」のメンバーである from ZERO と共同で、これまで文化学部・高知県立歴史民俗資料館・教育委員会の三者連携による、三原村・東洋町の民具にまつわる民俗・言語調査に取り組んできました。「文化財保護」「地域貢献」「情報発信」「文化再発見」「次世代への継承」を目指して「文化資源を活かしたカンカンミンガク域学共生事業」を行っています。カンカンミンガクとは、最初のカンは博物館の「館」、次のカンは行政の「官」、ミンは「県民・市民・NPO」、ガクは「小学校・中学校・高等学校・大学」のことです。現在、物部町において、高知県立歴史民俗資料館、香美市教育委員会、大栃小学校、中学校、山田高等学校、地元住民の連携による、民具と方言呼称の共同調査を行っています。



## 「哲学」を、大学からまちへ

### シネマ・フィロソフィア3.11

代表者：吉川孝（哲学・倫理学）

「映画」を上映しながら「現代社会の問題」を「哲学」の観点から考察する。これが「シネマ・フィロソフィア3.11」の取り組みです。これまで上映した作品は、「3.11」に関わる記録映画を中心に、「戦争の記憶」や「水俣病」に関連するものなど、いずれも現代の日本社会で私たちが生きるうえで大きな意味を持つテーマを扱っています。学生は、上映会の企画・宣伝・運営をしながら、パンフレットの作成や会場での展示を通じて、「表現の自由」「事実とフィクション」「プロパガンダ」「記憶と記録」「責任」「自然と人間」などテーマをめぐる研究発表をしてきました。上映会場には、映画制作の第一線で活躍する映画監督などを招いてお話をうかがっており、映像という表現手段や現代社会の問題について考えるための貴重な機会になっています。これまで、高知県立県民文化ホール、あたご劇場、ソーレ（こうち男女共同参画センター）、市内の喫茶店などを舞台に、映画の上映会や哲学カフェを開催しました。大学から街中のさまざまな施設へと教育・研究の場を移して、多くの人たちと触れ合いながら、これからの社会を生きるための教養を深めています。





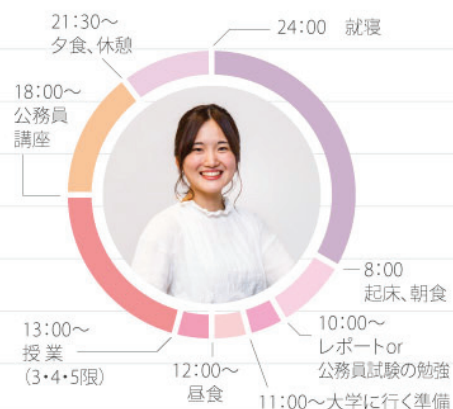


## 中島 董さん (地域文化創造系)

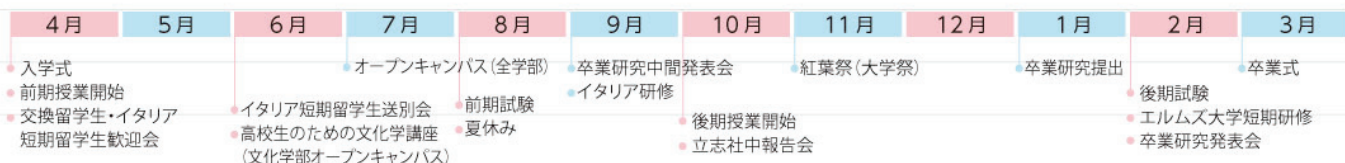
大学では、哲学・倫理学のゼミに入っています。当たり前だと認識していることが本当に正しいのか、先生やゼミ生と一緒に考えています。自分が今まで知らなかったことを新しく学ぶことや、自分にはない考え方や物の見方をする人と意見交流をすることは、とても面白いです。

将来は、地元で公務員になることを目指しています。講義が終わってから、永国寺キャンパスで開講されている公務員講座を受講しています。レポートや課題などで忙しい時期もありますが、友達と食事にかけてたり、アルバイトをしたりと充実した毎日を過ごしています。

## ■ 1日の過ごし方



## キャンパスカレンダー



入学式



エルムズ大学短期研修



卒業研究発表会



卒業式

## 学費等・学生生活データ

■ 入学料 県内生 141,000円 県内生(夜間) 70,500円  
県外生 282,000円 県外生(夜間) 141,000円

■ 授業料 昼間 535,800円 夜間主 267,900円

### ■ 授業料免除制度

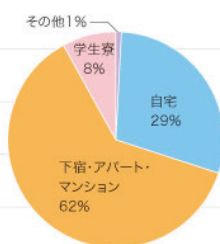
本学では次に該当する場合には、当該年度分の授業料が減免(全学・半額)される制度があります。

(1) 品行方正かつ学力優秀である者であって、学費が不十分である者

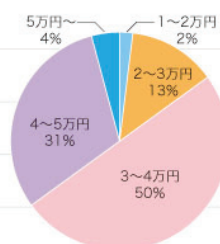
- ・一定の学力基準、家計基準を満たしていること
- ・日本学生支援機構の奨学金の貸与を受けていること
- ・前期の授業料を納入していること

(2) 学力が特に優秀である者

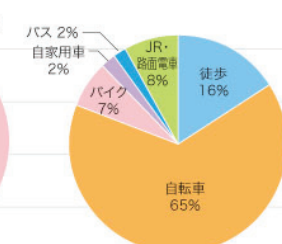
県大生の住まいは？



下宿生の家賃はいくらぐらい？



通学手段は？



# 就職・キャリア支援

## ✓就職決定率

96.1%  
(平成30年3月卒業)

96.3%  
(平成31年3月卒業)

97.1%  
(平成29年3月卒業)



窓口では気軽に相談できます。

## ✓学生全員を個別にフォローします

3年生の後期から就職支援(ワクワクWork!!)スタッフが、全員と面談して学生の就職活動を個別にサポートしています。全体での就職ガイダンスに加え、ひとりひとり個別の事情に合わせた支援を実現しています。

### ●履歴書・エントリーシートの書き方講座

差がつく志望動機、自己PR、学生生活で力を入れたこと等、エントリーシートを書くためのポイントを習得します。

### ●面接対策講座

キャリアコンサルタントや就職支援スタッフによる模擬面接を実施します。

### ●筆記対策模擬試験(SPI・教員採用試験等)

職務適性テスト、一般常識テスト等の模擬試験を実施しています。

### ●インターンシップセミナー

インターンシップに参加するにあたっての心構えや成果を上げるためのポイント等を習得します。

### ●就職活動体験報告会

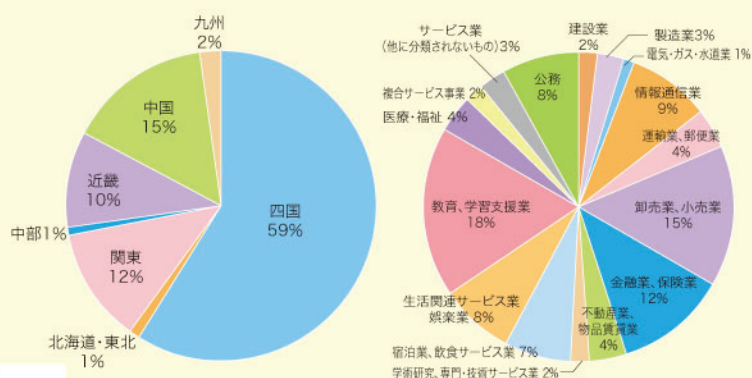
業種ごとのブースに分かれて就職先が決定した4回生から就職活動の体験を聞きます。



## ✓永国寺キャンパスで公務員試験対策講座を開講します

年間103コマ・通年コースの公務員試験の対策講座(受講料別途)は、文化学部の授業と同じく、永国寺キャンパスで開講されています。大学の授業から引き続き受講できるので、時間を有効活用できます。

## ✓四国だけでなく全国に、様々な業種に就職しています



平成31年3月卒業生  
勤務先【地域別】

平成31年3月卒業生 勤務先【産業別】

## ✓ステップアップ式のキャリア形成科目を設置しています

ひとりひとりが将来について、しっかり検討し、それぞれのビジョンを描いて自己実現に向かっていけるよう、ステップアップ式のキャリア形成科目群を学部の科目として設置し、進路選びや就労意識の向上を支援しています。

### ●キャリアデザイン論

自分のキャリアについて考えていくための第一歩として、人間にとって働くこととはどういうことか、職業の選択や将来設計に関するキャリア理論の考え方にはどのようなものがあるのか、大学で身に付けた能力を社会の中でどう発揮していけばいいのか、といった点について学びます。

### ●キャリア形成論

具体的に自分のキャリアを過ごす就職先となる職場を選んでいくために、世の中に存在する様々な業界の種類や企業のしくみについて学ぶとともに、業界研究や企業研究を行っていくための方法を身に付けます。

### ●企業実習

企業や公共団体等で、インターンシップを行い、大学の定める評価基準にもとづき単位を認定します。

就職情報はいつでも自由に閲覧できます。



就職支援コーナーでは情報がいっぱい！

# 卒業生

## 和歌山県教育委員会

### 寺西 史恵さん

(平成30年3月卒業)

私は文化学部で、主に、幅広い専門性とチーム力を学びました。

文化学部には、言語、文学、地域創造など、様々な授業が開講されています。国語の教師になるために、教育と国語の専門性を深めることは必要不可欠です。しかし、それだけでは、知識の視野は狭くなるでしょう。文化学部では多種多様な授業を受けることができるので、生きるために必要な幅広い専門性を得ることができます。

次に、チーム力についてです。昨今の教育現場では、「チーム学校」という言葉が謳われるほど、チーム一丸となって教育に取り組むことが重視されています。文化学部は人数が少ないぶん、人と人の絆が生まれやすいです。私は、「チーム教職課程」、「チーム文化学部」など、多くの人と協力して課題に取り組んできました。チームとして取り組む力は、現在の仕事の中でも役に立っています。



## ツネインLR(株)

### 川本 恵里奈さん

(平成28年3月卒業)

現在は、リゾートホテルでフロントスタッフとして働いています。海外国内を問わず、多くのお客様にご来館頂いております。様々なお客様におもてなしをするなか、文化学部で学んだことが役に立っています。

まず、ゼミでグループワークをするとき、相手に分かりやすく説明する力を養いました。職場では、お客様に接客をする際、ホテル館内や観光について分かりやすく説明できるように努力しています。

また、アメリカ長期留学では、何を相手に伝えたいかを明確に伝えることでコミュニケーションが円滑になることが分かりました。その経験から、お客様が何を求めているかを瞬間的にキャッチし、簡潔に案内することで安心してお過ごしいただけるように努めています。文化学部は、とてもアットホームで学生と教授の距離も近く、就活相談も気軽にしてくれます。文化学部で学んだことは、今の私を照らしてくれる道筋となっています。



## (株)テイクアンドグヴィ・ニース

### 辻井 千晶さん

(平成30年3月卒業)

私は大学四年間で諦めず挑戦することを学びました。特にゼミでは高度な英語に苦戦しながらも先生方からたくさんのアドバイスを頂き、卒業論文を書き上げられたことは自信に繋がりました。

また、就職活動では苦手な面接練習を何度も繰り返し行うことで本番では自分の納得のいく結果を出すことができました。

私は結婚式の幸せを伝えられる人になりたいと、ウェディングプランナーとして就職いたしました。一生に一度の結婚式をお手伝いさせて頂くお仕事です。お客様の期待以上のものを提供するためにいつも慎重に、そして的確な知識が求められます。ウェディングについて一からの勉強になるため、これから壁にぶつかることも多くあると思いますがお客様に心から寄り添えるウェディングプランナーになれるよう、大学生活で培った挑戦する気持ちを忘れずに成長していきたいです。



## 高松入国管理局

### 住江 卓哉さん

(平成28年3月卒業)

文化学部では、多くの先生方の講義を受ける機会に恵まれ、幅広い分野について学ぶことができました。

特にゼミでは哲学・倫理学を専攻していました。ゼミにおいては自分で課題や問題点を考え、他のゼミ生の発表の際には質問を行い積極的に議論に参加していくといった、より能動的な学習の重要性を痛感しました。大学で身につけた知識はもちろんですが、上記のような姿勢は今後、様々な部署で勤務する際にも心がけていきたいと思っています。

また大学では多くの就職に関するセミナー等があります。特に自分は模擬面接や面接カードの添削を行っていただきましたが、より自分自身や職業、社会について深く考える貴重な機会となりました。



## 主な就職先 (文化学部卒業、過去5年)

公務・教育が全体のおよそ3割 金融・保険、地方銀行に強く  
メーカー/卸・小売/サービス等、幅広く活躍しています。

### ●公務・教育

高松入国管理局(法務省)、高知県、高知市・香南市・須崎市・室戸市・佐川町(高知)、高知県警察、今治市・西予市(愛媛)、徳島県、美波町(徳島)、綾川町(香川)、福山市(広島)、岡山県警察、宝塚市(兵庫県)、有田川町(和歌山)、御浜町(三重)、袋井市(静岡)、岡山県教育委員会、香川県教育委員会、京都府教育委員会、高知県教育委員会、埼玉県教育委員会、鳥取県教育委員会、長野県駒ヶ根市教育委員会、兵庫県加西市教育委員会、広島市教育委員会、福井県教育委員会、和歌山県教育委員会、京都府学校事務採用、高知県公立大学法人、宇和島市立伊達博物館、岡山県立図書館、高知市司書、南国市立図書館、NPO秋みんなの図書館、自衛隊 等

### ●金融・保険

(株)中国銀行、(株)京都銀行、(株)山陰合同銀行、(株)阿波銀行、(株)紀陽銀行、香川銀行(株)、(株)四国銀行、(株)高知銀行、(株)鳥取銀行、(株)ゆうちょ銀行、全国共済農業共同組合連合会、高知県農業協同組合中央会、全国労働者共済生活協同組合連合会、香川県農業協同組合、いずも農業協同組合、香川県信用組合、広島信用金庫、京都北都信用金庫、九州ひぜん信用金庫、倉古信用金庫、高知信用金庫、しまなみ信用金庫、玉島信用金庫、日本生命保険相互会社、住友生命保険相互会社、朝日生命保険相互会社、東京海上日動火災保険(株)、損保ジャパン日本興亜(株)、あいおいニッセイ同和損害保険(株)、プレミアグループ(株)、日本プラスチック工業厚生年金基金、(株)ジェシービー 等

### ●メーカー/卸・小売 等

(株)技研製作所、金星製紙(株)、銘建工業(株)、シュウハウス工業(株)、ヤンマー農機製造(株)、セキスイハイム東四国(株)、関株、旭食品(株)、(株)サニーマート、(株)ノビア、ゴディバジャパン(株)、(株)浜幸、中澤氏家業(株)、(株)コスモス薬品、(株)ハローズ、(株)カドリー、インターナショナルkid blue、カイトック(株)、(株)ベベ、はるやま商事(株)、(株)香川ダイハツモーターズ、生活協同組合コープこうべ サービス 日本郵便(株)、四国電力グループ、土佐ガスグループ、三井不動産リアルティ(株)、積和不動産中国(株)、穴吹不動産流通(株)、(株)富士通ビー・エス・シー、パーソナルキャリア(株)、(株)テイクアンドグヴィ・ニース、(株)JTB中国四国、(株)近畿日本ツーリスト中国四国、ANA関西空港(株)、(株)関西エアポートエージェンシー、西日本高速道路エンジニアリング四国(株)、(株)中の坊、(株)城西館、両備ホールディングス(株)、岡山交通(株)、(株)四国中検、(社)近森会近森病院、(医)仁栄会鳥津病院、日本赤十字社岡山支部、高知医療生活協同組合、ヒューマンアカデミー(株)、NOVAホールディングス(株)、公益財団法人福武財団、税理士法人アラタ、(株)スタジオアリス、(株)高知新聞社、高知新聞企業(株)、(株)ザメディアジョン、(株)高知広告センター、(株)厨子王(株)、(公財)高知県国際交流協会、(一社)自動車整備振興会、(株)四万十ドラマ 等

### ●進学

高知大学大学院、高知県立大学大学院、徳島大学大学院、鳴門教育大学大学院、兵庫教育大学大学院、国立大学法人神戸大学大学院、フンボルト大学ベルリン 等  
注)教育委員会の採用の多くは、英語または国語の教師です。